ご　挨　拶

財団法人　成長科学協会
理事長　入　江　　實

財団法人成長科学協会は、身体の発育・成長の問題だけでなく心の発達に関しても強い関心を持ち、心の発達研究委員会（委員長：東　洋・東京大学名誉教授）を中心として活動を続けております。

今回、この委員会が中心となって第１３回公開シンポジウムを開催することとなりました。主題は「なぜ虐待はふえるのか」という重要な問題であり、司会は同委員会委員、成長科学協会理事として活動して頂いている小林登先生にお願いしました。内容としては「子どもの虐待」について３人の演者の先生方による種々の観点からの御提言を中心としてディスカッション、質疑応答、まとめ等を行なうものであります。

現在大変重要であると考えられる問題であり、多数の皆様の御参加をお待ちしております。

開催にあたって

「なぜ子どもの虐待は増えるのか」

わが国における親などによる子どもの虐待（Child Abuse）は、戦前から見られ、戦後はその荒廃から立ち直った１９６０年代から増加したように見える。はじめ、児童相談所が中心で、発見され対応されていたが、１９７０年代に入ると小児医療の現場でも見られるようになった。しかし、子どもの虐待は、潜在していた事例が表に出ただけであるという考えもなくはない。

成長科学協会、心の発達研究委員会は、「なぜ虐待は増えるのか」をテーマに３名の専門家をお招きして公開シンポジウムを開くことにした。ご関心をお持ちの方々に是非ご参加いただき、子ども達にとって、より良い社会を築き上げるにはどうしたらよいか、共に考えていただきたい。

心の発達研究委員会	委員長	東　　洋	（文京女子大学人間学部教授、東大名誉教授）
	委　員	小林　　登	（東大名誉教授、国立小児病院名誉院長）
	〃	原　ひろ子	（お茶の水女子大学名誉教授）
	〃	大野　澄子	（日赤医療センター）
	〃	丹羽　洋子	（育児文化研究所長）
	〃	森　　玲子	（精神障害共同作業所アリス）

プログラム

テーマ：　「なぜ虐待はふえるのか」

司会　小林　登

13：30～　開会　あいさつ　入江　實

演者からの提言　松井　一郎

牧野カツコ

稲垣　由子

休　憩

ディスカッション　質疑応答

ま と め

～16：30

演者紹介

小林　登（こばやし　のぼる）

東京大学名誉教授。国立小児病院名誉院長（医学博士）。
東京大学医学部卒業。アメリカとイギリスの小児病院に留学。東京大学医学部教授（小児科学）。国立小児病院小児医療研究センター初代センター長、国立小児病院長を歴任。現在は、インターネットの Child Research Net (http://www.crn.or.jp/) 所長として、国内ばかりでなく、国際的にも子ども学研究を進めている。

松井　一郎（まつい　いちろう）

国立小児医療研究センター客員研究員（小児生態研究部・前部長）。
日本医科大学卒業。東大小児科、神奈川県こども医療センター、愛知県発達障害研究所、国立小児病院（研究センター）、横浜市港北保健所を歴任。
小児保健学、人数遺伝学を専攻。

牧野カツコ（まきの　かつこ）

お茶の水女子大学大学院教授。
お茶の水女子大学児童学科卒業。東京大学大学院教育学研究科博士課程修了。
専門は家族社会学、教育社会学、家庭科教育学。
主な共著に「子どもの発達と父親の役割」「変動する家族ー子ども・ジェンダー・高齢者」など。

稲垣　由子（いながき　よしこ）

甲南女子大学人間関係学科教授。
発達行動小児科学を専門に行なってきた小児科医。
子どもの発達行動上の問題に対して、両親と共に、すこやかに成長発達を送れるように臨床を行なってきた。